

日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS

リリース・ノート

2005 年 2 月

本書では、日本語 DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS の制限事項、使用方法に関するヒント、その他有用な情報について説明します。

ソフトウェア・バージョン: 日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS, V2.4

オペレーティング・システム: 日本語 OpenVMS Alpha V6.2, V7.3-2, V8.2
日本語 OpenVMS I64 V8.2
日本語 OpenVMS VAX V5.5-2, V6.2, V7.3

日本ヒューレット・パッカード株式会社

2005 年 2 月

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パカードは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

© 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft および Windows は米国 Microsoft 社の商標です。

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

目次

まえがき	vii
1 英語版 DCPS と日本語 DCPS との対応	
2 日本語 DCPS V2.4 について	
2.1 新しいプリンタのサポート	2-1
2.2 日本語 DCPS V2.4 に含まれない機能	2-2
2.3 対応ソフトウェア	2-2
2.4 日本語ドキュメント	2-3
3 英語版 DCPS V2.4 について	
3.1 DCPS V2.4 の変更点	3-1
3.1.1 Integrity サーバのサポート	3-1
3.1.2 新しいプリンタのサポート	3-1
3.1.3 メディア・タイプ・セレクション機能の追加	3-2
3.1.4 新しいインストーション・プロシージャ	3-4
3.1.5 OpenVMS V6.1 のサポートの終了	3-5
3.1.6 クラスタワイドの論理名	3-5
3.1.7 LPD 製品名の変更	3-6
3.1.8 他社製トレイ・オプションのサポート	3-6
3.1.9 サポートされていないプリンタにおける PCL インタプリタ	3-6
3.2 DCPS Version 2.4 で修正された問題点	3-7
3.2.1 ホチキス止めのエラー	3-7
3.2.2 トレイの選択	3-7

4	プリンタ固有の情報	
4.1	HP 9085 MFP	4-1
4.1.1	ファームウェア・パッチ	4-1
4.1.2	キュー起動時の問題	4-1
4.1.3	デフォルト・サイズ以外の用紙の選択	4-1
4.1.4	サポートされる TCP/IP プロトコル	4-2
4.2	Xerox Phaser 4500, 6250, 7300, 7750 および 8400	4-2
4.2.1	サポートされるプロトコル	4-2
4.2.2	メディア・タイプ・セクション機能の制限	4-2
4.3	キューの起動に関する問題	4-3
5	日本語 DCPS の使用上の注意事項および制限事項	
5.1	HP LaserJet プリンタにおける日本語ファイルの出力に関する注意事項	5-1
5.1.1	LaserJet プリンタでの日本語出力に関する制限事項	5-1
5.2	A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合	5-2
5.3	半角英数字フォント	5-2
5.4	テキスト・トランスレータ	5-3
5.5	日本語版 DCPS に関するその他の情報	5-9
5.5.1	カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙 トレイ切り替えの相互作用	5-9
6	DCPS の制限事項	
6.1	OpenVMS V8.2 およびそれ以降のバージョンにおける AppleTalk	6-1
6.2	自動検出機能の付いたプリンタ	6-2
6.3	Raw TCP/IP または LAT キューでのジョブの "Starting" 状態	6-2
6.4	Raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting" 状態	6-3
6.5	Raw TCP/IP キューの接続の切断	6-3
6.6	使用不能な Raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ	6-5
6.7	カラー PostScript を生成できないトランスレータ	6-5
6.8	PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙	6-5

6.9	特定のプリンタでの ANSI トレイ 選択不可	6-5
6.10	ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ.....	6-7
6.11	常に正しく出力されるとはかぎらないプリンタ名	6-7
6.12	DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力	6-7
6.13	NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性	6-8
6.14	PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ	6-8
6.15	挿入された PJI コマンドの無視, バイナリ・モードは避けるべきこと	6-8
6.16	いくつかのプリンタでのエラー後の信頼性のない通信.....	6-9
6.17	接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP /QUEUE /RESET の使用を避けること	6-9
6.18	DELETE /ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力.....	6-10
6.19	/COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題	6-10
6.20	/JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題	6-10
6.21	I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生の可能性	6-11
7	DCPS に影響を与えるその他の制限事項	
7.1	DCPS プロセスによる CPU の消費.....	7-1
7.2	キューの起動による無効なデバイス名のエラー.....	7-2
7.3	マルチストリーム・シンビオントでのキュー起動の問題	7-2
7.4	シリアル接続プリンタの I/O エラー	7-3
7.5	アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンビオントの強制終了.....	7-4
A	Raw TCP/IP ポート番号	

B システムにインストールされるファイル一覧

表

1	日本語 DECprint Supervisor ドキュメント.....	viii
3-1	メディア・タイプ・エラー・メッセージ.....	3-3
3-2	PCSI パッチ・キット.....	3-5
4-1	推奨される最小ファームウェア・バージョン.....	4-3
A-1	raw TCP/IP ポート番号.....	A-1

まえがき

本書の対象読者

このドキュメントでは、本バージョンの日本語 DECprint Supervisor における新機能、問題点の修正、使用上のヒント、制限事項、およびその他の情報について説明します。このドキュメントは、DCPS をインストールするシステム管理者、および実際に使用する一般ユーザを対象としています。

本書の構成

本書の構成は以下のとおりです。

- 第 1 章，DCPS の英語版と日本語版の関係について説明しています。
- 第 2 章，日本語版 DCPS V2.4 の新機能および変更点について説明しています。
- 第 3 章，英語版 DCPS V2.4 における変更点について説明しています。
- 第 4 章，DCPS で特定のプリンタを使用する場合の注意事項について説明します。
- 第 5 章，日本語 DCPS V2.4 の制限事項について説明します。
- 第 6 章，英語版 DCPS V2.4 の制限事項について説明します。
- 第 7 章，DCPS に影響を与えることが判明している OpenVMS オペレーティング・システムの問題について説明します。
- 付録 A，IP プリンタを設定する際に使用されるポート番号を示します。
- 付録 B，OpenVMS システムにインストールされる DCPS V2.4 のファイル一覧です。

関連資料

DCPS については下記のドキュメントを参照してください。

表 1 日本語 DECprint Supervisor ドキュメント

『リリース・ノート』	DCPS の使用上の注意事項について説明しています。
『インストール・ガイド』	DCPS のインストール方法について説明しています。
『システム管理者ガイド』	システム管理者、データセンタ・オペレータ、アプリケーション・プログラマが、DCPS プリント・キューをどのように作成/管理し、印刷に関する問題を解決するかを説明します。
『ユーザーズ・ガイド』	DCPS を使用して PostScript プリンタに印刷する方法について説明しています。
『ソフトウェア仕様書 (SPD 48.27.xx)』	DCPS がサポートするプリンタの一覧、DCPS V2.4 の機能と動作環境について説明しています。

HP OpenVMS の製品およびサービス情報については、下記の URL の Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/jp/openvms/> (日本語)

<http://www.hp.com/go/openvms/> (英語)

本書の表記法

このドキュメントでは以下の表記法を使用します。

表記法	意味
Ctrl/x	Ctrl/x という表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
Return	例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。

表記法	意味
...	例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 文中のオプションの引数が省略されている。 • 前出の1つまたは複数の項目を繰り返すことができる。 • パラメータや値などの情報をさらに入力できる。
.	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。
()	コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。
[]	コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか1つを選択しても、あるいは1つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMSファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。
[]	コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを1つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。
{ }	コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか1のオプションを指定しなければなりません。
太字	太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。
<i>italic text</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i>)、コマンド・ライン (たとえば <i>/PRODUCER=name</i>)、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i>) などの変数を示す場合にも使用されます。
UPPERCASE TEXT	英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。
Monospace type	モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。 Cプログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。
-	コマンド形式の記述の最後、コマンド・ライン、コード・ラインにおいて、ハイフンは、要求に対する引数がその後の行に続くことを示します。

表記法	意味
数字	特に明記しない限り，本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数，8 進数，16 進数) は，その旨を明記してあります。

英語版 DCPS と日本語 DCPS との対応

日本語 DECprint Supervisor V2.4 for OpenVMS は、英語版 DECprint Supervisor V2.4 for OpenVMS を日本語用に拡張した製品です。本製品によって、さまざまな日本語 PostScript プリンタがサポートされます。

なお、英語版 DECprint Supervisor V2.4 は、現時点では日本でサポートされていないプリンタ製品もサポートしています。日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ではそれらのプリンタをサポートするための機能を削除してはませんが、それらの機能に対する弊社からのサポートは受けられません。また、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS には、HP PCL トランスレータなど、日本語に対応していないコンポーネントもそのまま含まれています。今後、サポートされるプリンタ製品および日本語機能が追加された場合には、その時点の『ソフトウェア仕様書』および『リリース・ノート』に記述します。

日本語 DCPS V2.4 について

この章では、日本語 DCPS V2.4 で変更された機能について概要を説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

日本語 DCPS V2.4 は英語版 DCPS V2.4 をもとに開発されており、英語版 V2.4 の機能に加え、日本語機能の拡張が行なわれてます。

英語版 DCPS V2.4 の機能変更については、第 3 章を参照してください。

2.1 新しいプリンタのサポート

日本語 DCPS V2.4 では、新たに次のプリンタがサポートされます。

- HP LaserJet 4250
- HP LaserJet 4350
- HP LaserJet 9050
- HP Color LaserJet 4650
- HP Color LaserJet 5550

注意

HP LaserJet プリンタまたは HP Color LaserJet プリンタで日本語を印字するためには、別売の日本語 PostScript フォント・メモリ・モジュール (DIMM) またはコンパクト・フラッシュ・メモリ・カードが必要になります。詳細は第 5.1 節を参照してください。

2.2 日本語 DCPS V2.4 に含まれない機能

次の機能は、日本語 DCPS V2.4 では提供しません。

- セパレータ・ページへの日本語ファイル名の印刷
- バンチ機能のサポート

2.3 対応ソフトウェア

日本語 DCPS V2.4 は下記のソフトウェアバージョンに対応します。

- オペレーティングシステム
 - 日本語 OpenVMS Alpha V6.2, V7.3-2, V8.2
 - 日本語 OpenVMS I64 V8.2
 - 日本語 OpenVMS VAX V5.5-2, V6.2, V7.3

- 日本語 PrintServer 構成の場合:

日本語 PrintServer ソフトウェア V5.0 以降と、次のいずれかのソフトウェア：

- HP DECnet for OpenVMS
- HP DECnet-Plus for OpenVMS
- HP TCP/IP Services for HP OpenVMS
- Process Software MultiNet for OpenVMS³
- Process Software TCPware for OpenVMS³
- TCP/IP 構成の場合：

次のいずれかの TCP/IP ソフトウェア

- HP TCP/IP Services for HP OpenVMS
- Process Software MultiNet for OpenVMS³
- Process Software TCPware for OpenVMS³

³ MultiNet for OpenVMS および TCPware for OpenVMS は、米国 Process Software 社の製品です。

³ MultiNet for OpenVMS および TCPware for OpenVMS は、米国 Process Software 社の製品です。

- AppleTalk 構成の場合：
 - PATHWORKS for OpenVMS (Macintosh) V1.3 以降 (Alpha および VAX)

各ソフトウェアのサポート・バージョンについては次の表を参照してください。

OpenVMS	TCP/IP Services	DECnet	DECnet-Plus
Alpha V6.2	V4.2	V6.2	V6.3
Alpha V7.3-2	V5.4	V7.3-2	V7.3-2
Alpha V8.2	V5.5	V8.2	V8.2
I64 V8.2	V5.5	V8.2	V8.2
VAX V5.5-2	V4.0	V5.5-2	—
VAX V6.2	V4.2	V6.2	V6.3
VAX V7.3	V5.3	V7.3	V7.3

2.4 日本語ドキュメント

日本語 DCPS V2.4 では以下のドキュメントを改訂しています。

- 『ソフトウェア仕様書』 (SPD)
- 『リリース・ノート』
- 『インストール・ガイド』
- 『ユーザズ・ガイド』
- 『システム管理者ガイド』
- オンライン・ヘルプ

本リリースでは、以下のドキュメントについては改訂していません。前バージョンのものがそのままご利用いただけます。

- 『日本語トランスレータ・リファレンス・マニュアル』

英語版 DCPS V2.4 について

ここでは、DCPS V2.4 における変更点について説明します。これらの変更点の多くは、本書以外でも説明されていますので適宜参照してください。

3.1 DCPS V2.4 の変更点

3.1.1 Integrity サーバのサポート

DCPS V2.4 では、Alpha システムおよび VAX システムに加え、OpenVMS I64 V8.2 がインストールされた HP Integrity サーバをサポートします。

3.1.2 新しいプリンタのサポート

英語版 DCPS V2.4 では、新たに以下のプリンタをサポートします。

- HP 9085 MFP¹
- HP Color LaserJet 2550
- HP Color LaserJet 4650
- HP Color LaserJet 5550
- HP Color LaserJet 9500 MFP
- HP LaserJet 2410
- HP LaserJet 2420
- HP LaserJet 2430
- HP LaserJet 4250
- HP LaserJet 4345 MFP
- HP LaserJet 4350
- HP LaserJet 9040 MFP

¹ Raw TCP のみ

HP LaserJet 9050
HP LaserJet 9050 MFP
Xerox Phaser 4500²
Xerox Phaser 6250²
Xerox Phaser 7300²
Xerox Phaser 7750²
Xerox Phaser 8400²

3.1.3 メディア・タイプ・セレクション機能の追加

DCPS では、トレイ番号と用紙サイズによる用紙の選択に加えて、メディア・タイプによる用紙の選択が可能になりました。

メディア・タイプは、特定のトレイでロードされる用紙のタイプを指定するためにプリンタに対して設定されます。通常、デフォルトは PLAIN です。その他のメディア・タイプとして、COLOR、LETTERHEAD、PREPRINTED、PREPUNCHED および RECYCLED が選択できます。ある用紙トレイが特定のメディア・タイプに設定されている場合は、そのトレイの用紙を使用して印刷を行うのは、そのメディア・タイプを要求しているジョブだけです。

DCPS ジョブでメディア・タイプを選択するには、次の例のように MEDIA_TYPE パラメータを使用します。

```
$ PRINT /PARAMETERS=MEDIA_TYPE=media-type file-name
```

MEDIA_TYPE パラメータには、任意の値を指定することができます。メディア・タイプは、プリンタのフロント・パネルあるいは web ページではしばしば省略形で表記される点に注意してください。たとえば、メディア LETTERHEAD の設定は LTRHEAD と省略されることがあります。ほとんどの場合は、完全な名前でも省略名でも、どちらでも指定できます。

プリンタで現在使用中のメディア・タイプを指定する必要があります。ご使用のプリンタでそのメディア・タイプが利用できない場合は、次のいずれかの結果になります。

² LPD および AppleTalk のみ

- 指定したメディア・タイプがそのプリンタで利用できないことを示す DCPS エラー・メッセージが表示される。
- 指定したメディア・タイプをロードするようにプリンタのフロント・パネルにメッセージが表示される。

どちらの動作になるかは、プリンタの特性によって異なります。たとえば、Deferred Media Selection が有効になっている HP プリンタでは、指定したメディア・タイプをロードするようにプロンプトが表示されます。それ以外のほとんどのプリンタでは、DCPS はジョブを印刷せず、代わりにエラーメッセージを返します。

メディア・タイプ・セレクション機能の利点は、ジョブに使用したい用紙が含まれているトレイのトレイ番号を知らなくても、用紙のサイズとメディアのタイプによって用紙の選択が可能なお点です。INPUT_TRAY および MEDIA_TYPE パラメータの両方を指定し、指定のトレイにそのタイプの用紙が含まれていない場合、DCPS はエラー・メッセージを表示します。

メディア・タイプ・セレクションは、PostScript Level 2 および Level 3 プリンタでのみサポートされます。PostScript Level 1 プリンタに対してメディア・タイプを指定した場合、DCPS はエラー・メッセージを表示します。

MEDIA_TYPE パラメータを使用した場合に表示されるエラー・メッセージとしては、次のようなものがあります。

表 3-1 メディア・タイプ・エラー・メッセージ

エラー・メッセージ	説明
MEDIATYPENOSUP	PostScript Level 1 プリンタでは、メディア・タイプ・セレクションはサポートされません。
MEDIATYPENOTAVL	printer name ではmediatypeタイプのメディアはロードされていません。
MEDIATYPENOTRAY	printer nameのtrayトレイには、mediatypeタイプのメディアはありません。

メディア・タイプ・セレクション機能についての詳細は『DCPS ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

3.1.4 新しいインストール・プロシージャ

本バージョンでは、VMSINSTAL ではなく POLYCENTER Software Installation Utility (PCSI) を使用してインストールを行うように変更されています。これによりインストレーション処理が速くなり、インストールしたソフトウェアの管理がより簡単になります。

DCPS V2.4 のインストレーションは次のコマンドで実行します。

```
$ PRODUCT INSTALL DCPS [/SOURCE=device:[directory]]
```

deviceおよびdirectoryには DCPS キットの場所を指定します。

/DESTINATION 修飾子の使用、あるいは論理名 PCSI\$DESTINATION の定義による代替インストール先の指定は行わないでください。DCPS はシステム・ディスクのクラスタ共通領域にインストールする必要があるため、代替インストール先の指定に関係なく、システム・ディスクのクラスタ共通領域にインストールされます。

PCSI ユーティリティの詳細および PRODUCT コマンドの使用方法については、『OpenVMS システム管理者マニュアル』および『OpenVMS システム管理ユーティリティ・リファレンス・マニュアル』、あるいはオンライン・ヘルプを参照してください。

古いバージョンの OpenVMS を使用している場合、DCPS をインストールする前に PCSI パッチ・キットのインストールが必要になる場合があります。表 3-2 を参照して、PCSI パッチのインストールが必要かどうかを判断してください。このパッチ・キットをインストールすることにより、ご使用のシステムの PCSI がアップグレードされます。

表 3-2 PCSI パッチ・キット

OpenVMS バージョン	PCSI パッチ・キット
Alpha V6.2 ~ V7.1-2	DEC-AXPVMS-VMS62TO71U2_PCSI-V0200-4
Alpha V7.2 以降	必要なし
I64 V8.2	必要なし
VAX V5.5-2	提供されていない。DCPS の VMSINSTAL キットについては HP にご相談ください
VAX V6.2 ~ V7.1	DEC-VAXVMS-VMS62TO71_PCSI-V0200-4
VAX V7.2	DEC-VAXVMS-VMS72_PCSI-V0101-4
VAX V7.3	必要なし

これらのパッチは下記の場所から入手できます。

- HP カスタマー・サポート・センター
- HP IT リソース・センター (ITRC) : <http://www.itrc.hp.com>

3.1.5 OpenVMS V6.1 のサポートの終了

OpenVMS Alpha V6.1 および OpenVMS VAX V6.1 システムにおける DCPS のサポートは終了しました。

3.1.6 クラスタワイドの論理名

DCPS は、さまざまな論理名を使用してアプリケーションおよびプリント・キューの動作を制御します。DCPS は論理名をクラスタワイドには定義しませんが、システム・テーブルに加えてクラスタワイドの論理名テーブルから、論理名を読み取ります。クラスタ論理名テーブルで定義されている DCPS 論理名は、システム・テーブルで提供されている論理名よりも優先されます。

この機能は、クラスタ論理名テーブルで DCPS 論理名を定義しているユーザのために提供されます。

3.1.7 LPD 製品名の変更

LPD を使用して、DCPS がサポートするプリンタに対して出力を行う場合、『DCPS システム管理者ガイド』で説明されているように論理名DCPS\$queue-name_PRODUCT_NAMEを定義する必要があります。この論理名の値として、プリンタの PostScript 製品名が使用されます。

DCPS V2.3 で LPD 機能が導入された際には、末尾のスペースや大文字/小文字の違いも含め、プリンタの製品名を正確に指定する必要がありました。本バージョンから、PRODUCT_NAME 論理名の値が正確に一致する必要はなくなり、末尾のスペースや大文字/小文字の違いは無視されます。

たとえば、キュー MYPRINTER で LPD を使用して HP LaserJet 9000 MFP プリンタに出力する場合、以前はPRODUCT_NAME論理名を次のように定義する必要がありました。

```
$ DEFINE /EXECUTIVE_MODE /SYSTEM DCPS$MYPRINTER_PRODUCT_NAME -  
_ $ "HP LaserJet 9000 MFP "
```

本バージョンは次のように、論理名の値の末尾のスペースの有無や大文字/小文字の違いは気にせずに定義できます。

```
$ DEFINE /EXECUTIVE_MODE /SYSTEM DCPS$MYPRINTER_PRODUCT_NAME -  
_ $ "HP LaserJet 9000 mfp"
```

3.1.8 他社製トレイ・オプションのサポート

新たな給紙トレイを追加するための他社製のオプションである TowerFeed 444 が、HP LaserJet 9000 シリーズ・プリンタでサポートされるようになりました。

3.1.9 サポートされていないプリンタにおける PCL インタプリタ

これまでは、DCPS でサポートしないプリンタについては、PCL インタプリタを持っていないものとしてジョブを処理していました。現在ではほとんどのプリンタがこの機能をサポートしているため、DCPS でサポートしないプリンタについて

も、PCL インタプリタを持っているものと想定して動作するというのがデフォルトの動作となっています。

サポートされていないプリンタに対して送られた PCL ジョブは、DCPS PCL 4 トランスレータによる PostScript 変換の代わりに、そのプリンタの PCL インタプリタを使用して印刷されます。これにより、より速く、より正確な出力が行われ、サポートされていないプリンタにおける PCL 5 および PCL 6 ファイルの印刷が可能になっています。

PCL インタプリタを持っていない DCPS 非サポート・プリンタに対して PCL ファイルを印刷するには、NUMBER_UP あるいは PAGE_LIMIT パラメータのいずれかを指定することにより、PCL 4 トランスレータを使用するように DCPS に指示することができます。

3.2 DCPS Version 2.4 で修正された問題点

以下の問題は DCPS V2.4 で修正されています。

3.2.1 ホチキス止めのエラー

デフォルトでジョブに対してホチキス止めを設定する特定のプリンタでは、DCPS の STAPLE=NONE パラメータは効果がなく DCPS ジョブは常にホチキス止めされていました。本バージョンでは、それらのプリンタのデフォルトのホチキス止め設定が STAPLE=NONE の指定により正しく変更され、ホチキス止め無しで正しくジョブが処理されるようになりました。

3.2.2 トレイの選択

DCPS V2.4 ではトレイの選択処理が改善されているため、HP LaserJet 2100, 2200 および Color LaserJet 2500 などで、給紙トレイと用紙サイズが制限なしで選択できるようになりました。

英語版 DCPS V2.4 について
3.2 DCPS Version 2.4 で修正された問題点

この変更によりいくつかの HP 製プリンタで発生していた次のような問題が解決されています。

- INPUT_TRAY パラメータを使用して給紙トレイを選択した時に、そのトレイの用紙がそのプリンタのデフォルトの用紙サイズとは異なる場合、指定外のトレイの用紙が使用される場合があります。

プリンタ固有の情報

この章では、特定のプリンタに対して適用される DCPS の使用方法について説明します。『DCPS システム管理者ガイド』および『DCPS ユーザーズ・ガイド』に、その他のプリンタ固有情報は含まれてます。

4.1 HP 9085 MFP

4.1.1 ファームウェア・パッチ

DCPS は、このプリンタ用のプリンタ・ファームウェア・パッチ 1-FBSB1 が適用されていることを必要とします。このパッチが適用されていないと、DCPS ジョブが正常終了しません。パッチが適用されているかどうかは、構成情報ページを出力して確認することができます。

4.1.2 キュー起動時の問題

このプリンタは、ジョブの最初の DCPS 同期要求に応答しません。このため、このプリンタのキューを起動する前に論理名 DCPS\$queue-name_NO_SYNC を定義しないと、DCPS ジョブが開始されません。詳細は、第 6.3 節あるいは『DCPS システム管理者ガイド』を参照してください。

4.1.3 デフォルト・サイズ以外の用紙の選択

このプリンタは、プリント・ジョブの間に DCPS によって要求されたすべての情報を返しません。特に要求したトレイの用紙サイズは、その時には DCPS にはわかりません。このため、トレイ内の用紙がそのプリンタのデフォルト・サイズではない場合、トレイ名だけで用紙を選択することはできません。そのプリンタのデフ

オルト・サイズ以外の用紙が含まれているトレイを INPUT_TRAY に指定した場合、プリンタは要求したサイズ of 用紙を補給するようにプロンプトを表示します。

そのプリンタのデフォルト・サイズ以外の用紙が含まれているトレイを選択する場合は、INPUT_TRAY の代わりに、MEDIA_TYPE、PAGE_SIZE、あるいは SHEET_SIZE パラメータを組み合わせで使用してください。

4.1.4 サポートされる TCP/IP プロトコル

TCP/IP 経由でこのプリンタに出力する場合は、Raw TCP プロトコルを使用してください。このプリンタで、ポート 9101 を使用する Direct Queue を有効にしておく必要もあります。

このプリンタに DCPS プリント・ジョブを出力するのに LPD プロトコルを使用することはできません。この制限実行は、将来のバージョンの DCPS で解決される予定です。

4.2 Xerox Phaser 4500, 6250, 7300, 7750 および 8400

4.2.1 サポートされるプロトコル

これらのプリンタへ TCP/IP 経由で出力する場合は、LPD プロトコルを使用してください。これらのプリンタは DCPS へジョブ終了情報を返さないため、これらのプリンタで Raw TCP プロトコルを使用することはできません。Raw TCP 経由で出力されるジョブは、印刷状態からホールド状態になった後、ストールします。

4.2.2 メディア・タイプ・セレクション機能の制限

これらのプリンタでは、メディア・タイプで用紙を選択することはできません。MEDIA_TYPE パラメータに値を指定しても、その要求は無視されます。

4.3 キューの起動に関する問題

いくつかの HP プリンタは、ジョブの最初の DCPS 同期要求に応答しません。このため、これらのプリンタのキューを起動する前に、プリンタのファームウェアを表 4-1 に示すバージョンにアップグレードするか、あるいは論理名 DCPS\$queue_name_NO_SYNC を定義しておく必要があります。この処理を行っていないと、DCPS ジョブは開始されません。詳細は、本書の第 6.3 節、あるいは『DCPS システム管理者ガイド』を参照してください。

また、プリンタのパーソナリティ設定は PS (PostScript) に設定することをお勧めします。ただし、プリンタのパーソナリティを PS (PostScript) に設定するだけではこれらのプリンタの問題は解決できません。

この問題は、以下のバージョンのプリンタ・ファームウェアで解決されます。

表 4-1 推奨される最小ファームウェア・バージョン

プリンタ	ファームウェア
HP Color LaserJet 5500	20030605 04.016.2
HP LaserJet 2300	20030530 04.047.2
HP LaserJet 4200	20030530 04.016.1
HP LaserJet 4300	20030530 04.016.1

ご使用のプリンタのファームウェア・バージョンは、プリンタのパネル・メニューから表示可能な設定情報、プリンタにインストールされている情報ページ、あるいは WebJetAdmin プリンタ管理ユーティリティで“Firmware Datecode”として参照できます。

ファームウェアのダウンロードとプリンタへのインストール方法については、HP の web サイトから入手することができます。製品ページのトップ・ナビゲーション・バーからサポート&ドライバを選択したあと、HP ドライバ&ダウンロードを選択してください。

日本語 DCPS の使用上の注意事項および制限事項

この章では、日本語版の DECprint Supervisor に固有の注意事項および制限事項について説明します。

5.1 HP LaserJet プリンタにおける日本語ファイルの出力に関する注意事項

HP LaserJet および HP Color LaserJet プリンタで日本語を含んだデータ (テキストあるいは PostScript) を印刷するには、日本語 PostScript フォントをプリンタにインストールする必要があります (日本語 PCL フォントでは印刷できません)。

LaserJet の日本語 PostScript フォントは、プリンタの機種ごとに別売のメモリ・モジュール (DIMM) またはコンパクト・フラッシュ・メモリ・カードで提供されています。注文番号や購入方法など、詳細は弊社営業担当までお問い合わせください。

5.1.1 LaserJet プリンタでの日本語出力に関する制限事項

日本語フォントをインストールした LaserJet プリンタには次の制限事項があります。

- 縦書きフォントはサポートされません。
- Shift JIS (RKSJ) エンコーディングの PostScript フォントは提供されていないため、正しく出力できません。

5.2 A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合

日本語 DECprint Supervisor V1.2 以前の ANSI トランスレータは A4 用紙へのランドスケープ・モードで 66 行出力する場合に問題がありました。サポートされているプリンタのなかには A4 用紙への印刷可能領域が平均的な印刷領域より少し狭くなっているものがあります。これらのプリンタでは、66 行目の内容が失われてしまうか、切れてしまいました。これはプリント・パラメータが PAGE_SIZE=A4, PAGE_ORIENTATION=LANDSCAPE のときに発生します。

日本語 DECprint Supervisor V1.2 以降に添付される ANSI トランスレータは A4 用紙へのランドスケープ・モードでの印刷で 66 行目も正しく出力できます。これを行うために ANSI トランスレータは使用するフォント (SGR 15) の縦方向のスペーシングを変更し、A4 用紙の最大印刷可能領域の値を修正しました。従来のトランスレータの出力結果の方を使いたい場合、DCPS キュー論理名を次の例のように定義します。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$<queue-name>_OLD_ANSI_PAGE_SIZES TRUE
```

なお、漢字 ANSI トランスレータでは、この修正は行なわれていません。もし、漢字トランスレータ使用時に、66 行目が正常に印刷されない場合は、FULL_A4_LANDSCAPE のレイアウト定義ファイルを使用して印刷してください。

5.3 半角英数字フォント

Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman などの日本語フォントには、JIS ローマ字セット以外の文字は含まれていません。このため、装置制御ライブラリ、DCPS\$DEVCTL.TLB にある拡張された findfont オペレータを用いて、これらのフォントに対して ISO Latin1 および DEC マルチナショナル文字セットを使用することはできません。

5.4 テキスト・トランスレータ

1. フォーム定義

漢字 LN05 の標準設定では、フォーム・データ用のメモリは 16 ページあわせて 64 K バイトとなっています。この値は、グラフィック・オプションなどの使用で増やすことができます。トランスレータによるフォーム・オーバーレイでは、1 ページあたり 64 K バイトまでのフォーム・データを登録することができます。1 ページあたり 64 K バイトを越えるフォーム・データを登録しようとすると、DECLKF シーケンスそのものが無効になります。PRINT コマンドでマルチファイル指定をした場合、あるファイル内で登録したフォーム・データを他のファイルで使用することはできません。複数のファイルで共通のフォームを使用したい場合は、フォーム・データをセットアップ・モジュールとして登録し、そのモジュールを PRINT コマンドの /SETUP 修飾子で指定してください。

2. 複数ファイルの印刷

複数ファイルを 1 つのプリント・ジョブで印刷する場合、各ファイルの先頭で初期設定が行われます。このため、あるファイルの中で行った設定を、次のファイルで利用することはできません。このようなときは、セットアップ・モジュールに必要なエスケープ・シーケンスを登録しておくことにより、各ファイルの初期状態を制御することができます。

3. LN82R での外字と斜体 (イタリック) 属性の混在

LN82R に印刷されるファイルに外字が含まれ、かつイタリック属性が漢字に対して指定されると、PostScript の FATAL エラーになる場合があります。この場合、プリント・キューを停止し、キューからジョブを削除し、プリンタの電源を入れ直してください。

4. テキスト・トランスレータの性能

テキスト・トランスレータで日本語文書を印刷する場合、必ずしもプリンタ・ハードウェアの最高速度では印刷できません。白黒反転や網かけ、倍角文字、縦書き、外字があるとき、および 1 バイト文字と 2 バイト文字が頻繁に交互に現われるような場合には、印刷速度はさらに遅くなります。

5. テキスト・トランスレータの外字と内蔵フォント

日本語 PostScript プリンタの内蔵漢字フォントは、PostScript のアウトライン・フォントです。外字は日本語 VMS の FEDIT ユーティリティ、または CHARACTER_MANAGER ユーティリティで作成することができますが、このフォントは、40 ドット×40 ドットまたは 32 ドット×32 ドットのビットマップ・フォントです。したがって、外字の倍角文字は内蔵フォントの倍角文字に比べて、印字品質が劣ります (ギザギザが見えます)。

6. 罫線文字

テキスト・トランスレータで使用している罫線文字は、文字間隔/行間隔が文字サイズに比べてかなり大きいときにはつながりません。

また、この罫線は PostScript フォントを使用して表示しているため、表示される位置やサイズによっては装置上で 1 ピクセル程度のずれを生じることがあり、結果として、罫線が一直線にならない場合があります。

7. SIXEL と文字の重ね合わせ

SIXEL とテキストを座標指定 (VPA, HPA など) で位置を指定して、同じページ上で重ね合わせるとき、印刷可能領域上端付近 (通常トップ・マージンの位置) の座標を指定した場合、結果として表示される文字や SIXEL の縦方向 (Y 座標) の位置が LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータでは異なります。SIXEL では、どちらも通常は SIXEL の上端の座標が、指定された Y 座標から 70 ピクセル上になるように表示しますが、LN03/漢字 LN03 では、この表示方法を取ったときに SIXEL が印刷可能領域上端を超える場合には、SIXEL の上端の座標が、印刷可能領域上端になるように位置を下げて表示します。このため、印刷可能領域上端付近の座標を指定して文字と SIXEL を重ねた場合に、LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータの出力を比べると、LN03/漢字 LN03 の SIXEL はテキスト・トランスレータよりもやや下にずれます。印刷可能領域上端から離れた位置を指定した場合には、両者に違いは見られません。

8. テキスト・トランスレータのプロローグ処理

テキスト・トランスレータは、印刷ジョブの開始時に、大量の PostScript プロローグ処理 (初期設定) を行います。この処理は印刷ジョブの内容によらず常に同じなので、初めからプリンタに常駐させておけば、ジョブの最初の 1 ページが出力されるまでの時間を短縮することができます。デフォルトでは、プロローグを常駐させることにしていますが、このことはテキスト・トランスレータ

以外の印刷ジョブにとっては、利用できる PostScript VM (Virtual Memory) が減少していることを意味します。弊社では、PostScript アプリケーションが VM を 400KB 以上使わないようにお勧めしますが、もしもこの制限を守っていないソフトウェアがあると、PrintServer プリンタでは VM が足りないというエラーで実行できなくなる場合があります。PrintServer プリンタとシリアル・プリンタではプロローグを常駐させる処理が異なります。

- 日本語 DEC PrintServer サポートینگ・ホスト・ソフトウェア V4.2 または日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 を使用している場合

このサポートینگ・ホスト・ソフトウェアを使ってブートされた PrintServer では、DCPS と互換性のあるプロローグが常駐しているので、特別に処理をする必要はありません。また、このサポートینگ・ホストでは、プロローグは必ず常駐していなければなりません。

- PostScript シリアル・プリンタの場合

PostScript シリアル・プリンタでは、プリンタの電源投入後の最初のプリント・ジョブで、プロローグが常駐しているかどうかをチェックし、していなければダウンロードします。この時、PostScript パスワードがプリンタ出荷時の設定になっていない場合 (LN82R では 0 でない場合)、プロローグは常駐されません。つまり、PostScript パスワードをデフォルト以外の値に設定することによって、常駐をやめることができます。

9. PostScript フォント UniqueID

テキスト・トランスレータでは、使用する PostScript フォントに対して、UniqueID を指定しています。3658490 から 4194312 の UniqueID は他の PostScript アプリケーションでは使用しないでください。

10. 半角ローマ字フォントの制限

PrintServer では、内蔵 PostScript フォントの Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman の半角ローマ字フォントは、JIS ローマ字以外の文字セットをサポートしません。このため、テキスト・トランスレータでは明朝体半角ローマ字フォントを PostScript Courier フォントで代用しています。

ゴシック体半角ローマ字は PostScript の半角ローマ字を使用しているため、JIS ローマ字または ASCII 文字セット以外の文字セットを指定した場合、存在しない文字は空白 (スペース) 文字で置き換えられます。

11. SETUP モジュールでの印刷

ANSI(ASCII), KANJI, KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプの SETUP モジュールを作成し、その中で文字を印刷することができますが、この文字を PRINT コマンドで指定したファイルの先頭ページに印刷することはできません。SETUP モジュールの中で印刷した場合には、PRINT コマンドのファイルを印刷する前に改ページが行われます。ANSI(ASCII), KANJI, KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプで SETUP モジュールを作成し、その中でフォント・ローディング命令またはピッチ指定命令を使用したときには、空白 (スペース) 文字を含む実際の文字の印刷を SETUP モジュールの中で行うことはできません。

12. DECVPFS とマージン

可変ページ・フォーマット選択命令 (DECVPFS) でページ・オリエンテーションを変更する場合、オリエンテーション変更後のページ・マージン (上下マージン, 左右マージン) も同時に指定してください。

マージンを新たに指定しない場合、従来のマージンの値が採用され、シートの外にマージンが設定された状態になることがあります。

13. DECVERP, DECSHORP のパラメータ Ps=0

漢字 LN05 とテキスト・トランスレータの 8 ポイント・フォントの高さは、それぞれ 768 centipoint と 922 centipoint として定義されています。このため、フォントの高さをもとに位置を制御する命令を使うと、出力結果が異なってしまいます。これを避けるため、行ピッチの指定は SPI などでも示的に行うようにしてください。また、8 ポイント・フォントを使っていないファイルでも GSM (文字サイズ指定命令) の後に、DECVERP, DECSHORP のパラメータで 0 を指定すると、漢字 LN05 とテキスト・トランスレータで行ピッチ/文字ピッチの違いが生じることがあります。この場合も SPI などで行ピッチ/文字ピッチを明示的に指定する事により、同様に互換性を保つことができます。

14. A4 ページ・サイズでの文字ピッチ

A4 ページ・サイズに対して、デフォルト状態での文字属性指定命令 (SGR) で、Ps=10 または 11 によりフォント指定後、文字ピッチ指定命令 (DECSHORP) の Ps=0 を指定した時の文字ピッチは、10cpi でなく 10.3cpi となります。

15. SS2 と SS3

SS2 または SS3 に続いてコントロール・コードがあった時の処理が、LN05 などと異なる場合があります。SS2 または SS3 は、対象となる文字コードの直前に入れるようにしてください。

16. SUB

SUB コードが漢字コードの 1/2 バイト間に割り込んだ場合の処理が、LN05 などと異なります。LN05 では SUB コードを漢字の 2 バイト目とみなして全角のリバース・クエスチョンを出力しますが、テキスト・トランスレータは SUB コードを先に処理するため、漢字は正常に出力されます。

17. DEC DUTCH と DEC FRENCH

DEC DUTCH 文字セットの 4/0 と 7/11 および DEC FRENCH 文字セットの 7/14 は、マニュアルの記述と違う文字が出力されます。

18. PLD と PLU

下線、上線、二重下線は、PLD、PLU を行っても移動しません。

19. 垂直タブ

VT によって次の垂直タブ位置まで移動する場合、行間隔が狭すぎるとさらに次の垂直タブ位置まで移動することがあります。このときには、行間隔をひろげるか、または今より小さいフォントを使うことにより、所要のタブ位置に移動することができます。

20. DECVERP と垂直タブ位置

DECVERP (行ピッチ選択命令) を行った場合、垂直タブはホーム・ポジションを基準とした位置にすべて再設定されます。このため、最初の VT による垂直方向の移動量は、現在の位置によって変化しますが、次の VT からは DECVERP によって設定された行ピッチと等しくなります。

21. DECDHLT と DECDWL の組み合わせ

LA_KANJI データ・タイプで、DECDHLT (行拡大命令・4 倍角) がすでに有効となっている行で DECDWL (行拡大命令・横倍角) を指定した場合、DECDWL は無視されます。同じ行のなかで行拡大命令を組み合わせることは避けてください。

22. DECSTBM と DECVERP

LA_KANJI データ・タイプでは、DECSTBM (上下マージン設定命令) で設定されたマージンは DECVERP (行ピッチ選択命令) ではクリアされません。この場合、DECSTBM によってマージンを再設定してください。

23. SHS と DEC SHORP または GSM と DEC SHORP

SHS (水平ピッチ選択命令) と DEC SHORP (水平ピッチ選択命令) の組み合わせ、または GSM (文字サイズ指定命令) と DEC SHORP の組み合わせで、水平タブ位置が LN05 などと合わないことがあります。この場合、水平タブのかわりにスペースを使うことにより、同じ出力を得ることができます。

24. JFY

JFY (行揃え) をオフに設定した行は、その 1 行すべてが行揃えされなくなります。

25. DECVERP と DEC SLPP

DECVERP (行ピッチ選択命令) によって行ピッチが指定されていた場合、DEC SLPP (用紙長設定命令) で設定した行数より 1 行早く改ページする場合があります。このときには、行間隔をひろげるか、または今より小さいフォントを使うことにより、指定した行数で改ページするようになります。

26. DECVERP による縦倍角のクリア

LA_KANJI データ・タイプでは、GSM (文字サイズ変更命令) による縦倍角指定は、DECVERP (行ピッチ選択命令) によって解除されます。

27. ファイルの先頭にある改ページまたは改行 + 改ページ

テキスト・ファイルの先頭が、改ページ・コードまたは改行 + 改ページで始まる場合、漢字 LN03 に比べて余分な白紙が 1 枚多く出力されることがあります。このようなときは、先頭の不要な改ページ・コードを取り除くか、またはファイル・フォーマットを stream_LF に変更することにより、漢字 LN03 と同様な動きになります。

28. DEClaser2400 (漢字 LN10) との違い

DEClaser 2400 で提供されている以下の機能は、テキスト・トランスレータでは利用できません。

- 漢字アウトライン・フォント・オプションによる、フォントのスケーリング

29. 文字属性

文字属性にアンダーライン、二重アンダーライン、抹消ライン、反転、または網かけが設定されている場合、文字ピッチの設定およびそのときに使用される文字フォントの組み合わせによっては漢字と英数字との間で文字属性に 1 ピクセル程度のずれを生じることがあります。

テキスト・トランスレータと他のプリンタとの上記以外の機能の違いは、「日本語トランスレータ リファレンス・マニュアル」を参照してください。

5.5 日本語版 DCPS に関するその他の情報

この節では、日本語 DCPS 製品に関する一般的な情報で、他のドキュメントに含まれないものを示しています。

5.5.1 カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙トレイ切り替えの相互作用

日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 では、日本語 PrintServer 17/600 プリンタに給紙トレイの自動切り替え機能を提供しています。これにより、現在の給紙トレイが空になったとき、プリンタは同じサイズの用紙が入っている別の給紙トレイに、自動的に切り替えます。この機能は省略時設定で有効です。

現在色つきの紙のフラグ・ページを使用している場合、この給紙トレイ切り替え機能を無効にできます。以下のステップを実行してください。

1. LPS\$SUPPORT:LPSDEFAULTS.*printer-name* を編集する
2. /TraySwitch パラメータを検索する

```
/TraySwitch true                                % Controls input tray failover.  
                                                  % false = disable  
                                                  % true = enable
```

3. /TraySwitch パラメータの値を、「true」から「false」へ変更する。必ず小文字で「true」か「false」と記述してください。

日本語 DCPS の使用上の注意事項および制限事項
5.5 日本語版 DCPS に関するその他の情報

```
/TraySwitch false                % Controls input tray failover.  
                                  % false = disable  
                                  % true = enable
```

4. 新しい値を有効にするために、日本語 PrintServer 17/600 プリンタを再構成またはリポートする

詳しくは『DEC PrintServer Supporting Host Software for OpenVMS Management Guide』を参照してください。

DCPS の制限事項

この章では、DECprint Supervisor に関する注意事項および制限事項について説明します。日本語版の DECprint Supervisor に固有の制限事項については、第 5 章で説明しています。また、プリンタ固有の制限事項については、第 4 章、『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム管理者ガイド』、および『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

6.1 OpenVMS V8.2 およびそれ以降のバージョンにおける AppleTalk

DCPS が使用するネットワーク・プロトコルの 1 つとして、OpenVMS Alpha および VAX システム上のレイヤード製品である PATHWORKS for OpenVMS (Macintosh) で提供される AppleTalk があります。この製品はすでにリタイアしておりサポートされていませんが、DCPS はその後も AppleTalk キューとの動作が可能でした。

しかし、OpenVMS V8.2 でオペレーティング・システムに対して行われた変更により、AppleTalk プロトコルは開始できなくなりました。このため、OpenVMS V8.2 以降、DCPS は AppleTalk キューと動作することはできません。

OpenVMS V8.2 以降は、次のようなメッセージが表示され、キューの起動に失敗します。

```
%DCPS-F-CANNOTSTART, cannot start queue queue_name
%DCPS-F-TRANSPORTNOTSUP, transport not supported - AppleTalk
%SYSTEM-F-IVPARAM, invalid parameter specified
```

OpenVMS クラスタ環境で AppleTalk プロトコルを使用したい場合は、可能であれば、キューを実行するノードを OpenVMS V8.2 より前のバージョンに変更してください。

6.2 自動検出機能の付いたプリンタ

多くのプリンタでは、プリント・ジョブのデータ・タイプを検出することができます。このようなプリンタでは、フロント・パネルまたはプリンタ管理ソフトウェアを使用して、接続チャンネル毎に自動検出の状態と自動検出機能が有効になっているかどうかを調べることができます。

この機能を提供するほとんどのプリンタについては、プリンタが“PostScript”モードあるいは“Auto-Sensing”モードに設定されている場合、日本語 DECprint Supervisor ソフトウェアは正しく動作します。このようなプリンタは、DCPS キューを起動する前に、上記のモードのいずれかのモードで動作するように設定しておかなければなりません。プリンタが“PCL”モードに設定されている場合は、DCPS ソフトウェアは正しく動作しません。

詳細については、本書の第 4 章および『DCPS システム管理者ガイド』を参照してください。

6.3 Raw TCP/IP または LAT キューでのジョブの "Starting" 状態

ほとんどのプリンタは DCPS ジョブの冒頭で PostScript 同期化コマンドに回答しますが、応答しないプリンタもあります。あるキューのすべてのジョブが Starting 状態のままの場合には、次のいずれかの処置を講ずる必要があります。

- プリンタの言語設定を変更する

ほとんどの場合、プリンタの言語識別モードを、PostScript と PCL の自動検出ではなく、PostScript に設定すると、この問題は解決されます。適切なポートに対して言語を変更する手順については、ご使用のプリンタのドキュメントを参照してください。これが、この問題を回避するための推奨方法です。

- NO_SYNC 論理名を定義する

プリンタの設定を変更しても問題が解決されない場合には、論理名 `DCPS$queuename_NO_SYNC` を定義し、キューを再起動することにより、DCPS に PostScript 同期化コマンドをスキップするように通知することができます。これは、組み込みネットワーク・インタフェース・カード (NIC) 上で Raw TCP/IP または LAT 接続を使用するプリンタで機能します。他の相互接続を経由して接続されているプリンタを使用している場合には、何の効果もありません。

6.4 Raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting" 状態

Raw TCP/IP 接続を使用する DCPS キューを設定する際にプリンタに不正な TCP ポート番号を指定した場合、そのキューに出力したプリント・ジョブは "Starting" 状態のままとなります。これは、DCPS がネットワーク障害とプリンタのビジー状態あるいはオフライン状態を区別できないため、DCPS がユーザによる不正なポート番号指定であるかどうかを判断することができないことが原因です。

これ以外の理由によっても Raw TCP/IP キュー内のプリント・ジョブが "Starting" 状態のままとなる場合があることに注意してください。

プリンタ、ネットワーク・インタフェース・カード、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのドキュメントをチェックし、正しい TCP ポート番号を使用していることを確認してください。TCP ポート番号については、本書の表 A-1 にも記述されています。

6.5 Raw TCP/IP キューの接続の切断

HP Color LaserJet 9500、LaserJet 9055mfp、あるいは LaserJet 9065mfp などのデータ・スプール用に大きなメモリあるいはディスクを備えたプリンタでは、Raw TCP/IP 接続を使用している場合に、長いプリント・ジョブで CONTERMINATED エラーが発生する可能性があります。

DCPS の制限事項 6.5 Raw TCP/IP キューの接続の切断

単一のファイルから構成されるジョブあるいはプリンタのネイティブ PostScript 互換機能のみを使用している場合、このエラーはジョブの最後で発生する傾向があり、(キューに対してトレーラを指定している場合) トレーラ・ページは出力されず、(プリント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。これ以外のジョブについてはジョブの途中で発生する可能性があり、トレーラ・ページと同様に以降のドキュメントは出力されず、(プリント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。DCPS は中断されたジョブを再度キューに登録して "Holding" 状態とし、ユーザによる問題解決後に再度そのジョブを出力できるようにします。

HP JetDirect カードを含むいくつかのネットワーク・デバイスでは、指定された時間内にホスト・システムから入力を受け取らない場合には、TCP/IP 接続が切断されます。これは、ホスト・ソフトウェアによるデバイスの専有を防ぐための機能です。ただし DCPS は、プリンタが PostScript から別のネイティブ・プリンタ言語に切り替える場合、あるいはトレーラ・ページの出力およびアカウント情報の収集を行う場合、その前に出力したドキュメントをプリンタが出力したことという通知を受け取るまで待ちます。この場合はたとえプリンタがビジー状態であっても、指定されたタイムアウト時間が経過するまで、NIC は DCPS からのそれ以上の入力を受け取ることができません。

NIC の TCP/IP アイドル・タイムアウト時間の変更が可能である場合は、タイムアウトを無効とすること、あるいはタイムアウト時間を長くすることによってこの問題を回避することができます。NIC のドキュメントをチェックして、これが可能であるかどうか、また可能であればその方法を確認してください(最近の HP のプリンタでは、この設定を TCP/IP のアイドル・タイムアウトと呼んでいます)。続いて、必要な出力が得られないため、キューに再登録されたジョブを解除し、キューに再登録されているその他のジョブを削除してください。

重要なのはジョブのサイズではなく、その処理にかかる時間であることに注意してください。たとえば、非常に小さな PostScript プログラムであっても、出力に非常に長い時間がかかる場合があります。このため、どの程度のタイムアウト時間が適当であるのかを予想することは一般的に困難です。

6.6 使用不能な Raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ

Raw TCP/IP 接続を使用するプリンタのキューにジョブを登録した際に、そのプリンタがビジー状態あるいはオフライン状態である場合は、そのプリンタについて NOT_READY 警告メッセージが表示されます。プリンタがビジー状態にあることが確実である場合は、このメッセージを無視することができます。DCPS は、プリンタがビジー状態であるか、オフライン状態であるか、その他の理由により使用不能であるかを区別することができません。

6.7 カラー PostScript を生成できないトランスレータ

DCPS で提供されているトランスレータ (たとえば ReGIS) は、カラー情報を含んでいるソース・ファイルであっても、カラー PostScript コマンドを生成することはできません。カラー情報は、グレースケールに変換されます。

6.8 PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙

PostScript Level 2 プリンタで各ジョブを分離して出力するようにジョブ・シフト排紙を有効にしている場合、ジョブ本体とそのトレーラ・ページ間でシフト排紙が発生します。

6.9 特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可

トレイ選択のエスケープ・シーケンスを含む ANSI ファイルを出力する場合、使用しているプリンタによっては出力できない可能性があります。この場合、`offendig command is "setpapertray"` という PostScript 構成エラーが発生してジョブが中断されます。

DCPS の制限事項

6.9 特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可

また、Compaq Laser Printer LN16 などのいくつかのプリンタでは、PostScript トレイ番号 0 の給紙トレイを持っています。トレイを選択するために ANSI エスケープ・シーケンス DECASFC が使用されますが、0 という値はトレイの変更がないという意味であり、トレイ 0 の選択はできません。たとえば、次の ANSI エスケープ・シーケンスはトレイ 0 を選択せず、トレイの変更なしを示します。

```
<CSI>0!v
```

この問題の回避策は、TRN\$XLATE_DICT ディレクトリ内に settoptray , setbottomtray , setlcitray という PostScript コマンドを再定義するセットアップ・モジュールを作成して起動することです。

たとえば、Compaq Laser Printer LN16 , DIGITAL Laser Printer LN15 あるいは LN15+ の場合は、settoptray , setbottomtray , setlcitray を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray      { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setbottomtray  { statusdict begin 1 setpapertray end } def
  /setmanualfeedtray { statusdict begin 3 setpapertray end } def
end
```

たとえば HP LaserJet 4M Plus の場合には、settoptray , setbottomtray , setlcitray を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray      { statusdict begin 3 setpapertray end } def
  /setbottomtray  { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setlcitray      { statusdict begin 1 setpapertray end } def
end
```

PostScript トレイ番号は、『DCPS ユーザーズ・ガイド』に記述されています。

6.10 ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ

内部的なアーキテクチャのため、いくつかのプリンタではプリンタと通信しているホスト・システムではなく、プリンタ・コンソールにステータス情報を通知するものがあります。このため DCPS はいくつかのステータス状態 (たとえば紙切れ、紙詰まり、複雑すぎるページ、カバーの開放など) を検出できないため、ユーザにその状態を通知することができません。その代わりに、その後に DCPS がそのプリンタと通信しようとした場合に、DCPS キューは "Stalled" 状態となります。これは最初にこの問題が発生したジョブで表示されることも、その後のジョブで表示されることもあります。

この問題が発生するプリンタは次のとおりです。

- DEClaser 5100 プリンタ
- LN17ps プリンタ
- いくつかの HP LaserJet III プリンタおよび IV プリンタ (ただし、紙詰まりの回復機能が無効となっている場合、HP PostScript-Plus Level 2 カートリッジの付いた HP LaserJet III および HP LaserJet IIISi では発生しません。)

6.11 常に正しく出力されるとはかぎらないプリンタ名

各国語対応文字が PostScript "printername" で使用されている場合、セパレータ・ページの下部に出力されるプリンタ名が間違った文字セットで出力される可能性があります。

6.12 DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力

DDIF エンコード 2 値イメージを出力するには、DCPS は DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services (DAS) がシステムにインストールされていることを必要とします。DAS は OpenVMS VAX システムだけで使用可能です。

6.13 NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性

ユーザ・アプリケーションで LaserWriter 8.0 または 8.1.1 ドライバ、あるいは Adobe 2.1.1 Windows ドライバを使用して作成された PostScript ファイルは、1 より大きな NUMBER_UP が指定された場合に正しく出力されません。

この場合、ページが抜けたり、NUMBER_UP ページ位置とは異なる位置に出力されたり、間違った拡大縮小率で出力されるという現象が発生します。

6.14 PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ

LIST トランスレータは、ページのフォーマットの際に PAGE_SIZE パラメータを無視します。この場合、LIST トランスレータは A (レター用紙) および A4 用紙に適合する最大サイズのページを作成します。

ポートレートの場合: 80 カラム, 70 行

ランドスケープの場合: 150 カラム, 66 行

PAGE_SIZE および SHEET_SIZE パラメータの両方を指定して、論理ページを拡大縮小して異なるサイズの用紙に出力することが可能です。

6.15 挿入された PJI コマンドの無視、バイナリ・モードは避けるべきこと

DEClaser 5100 および HP LaserJet IV ファミリーなどの PJI プリンタ用のファイルを作成するドライバは、HP Printer Job Language (PJI) 内にプリンタ制御コマンドを含んでいます。DCPS はそのデータを検出して無視します。このため、そのようなドライバによって選択されたプリンタ・オプションはプリンタ・ジョブに影響を与えません。

これらのドライバを使用する場合は、バイナリ・モードを選択してはなりません。バイナリ・モードでは、DCPS を経由して出力する場合に不正な動作を引き起こす可能性のあるコマンドをファイルに追加するからです。DCPS トランスレータ

を經由してジョブが渡されたかどうかに関わらず、出力フォームはキューに実際に接続されているプリンタに依存しています。

6.16 いくつかのプリンタでのエラー後の信頼性のない通信

AppleTalk 接続を使用していくつかのプリンタに出力した場合、プリント・ジョブの最後で予測できないエラーが発生する可能性があります。この問題が発生するプリンタには、LaserWriter Pro 600、LaserWriter Pro 630、LaserWriter IIg、LaserWriter IIfなどが含まれます。一般に、プリント・ジョブで特定の理由の明確なエラー、たとえば PostScript インタプリタに "Flush to the EOJ" を発生させる PostScript エラー、あるいは手差しによる給紙を待つ間にタイムアウト・エラーなどが発生した場合、予測できないエラーが発生します。次のような現象が発生します。

- 第 2 の PostScript エラーあるいはタイムアウト・エラーの発生
- DCPS とプリンタ間の通信の切断
- ジョブのトレーラ・ページが指定されている場合に出力されない
- アカウント情報ファイル内のページ・カウントの不正
- ジョブが完了するまでに最大 1 分の遅延

プリント・ジョブのユーザによる出力部分は正しく出力されます。DECprint Supervisor によって処理されるジョブの最後 (たとえば、ページ・カウントの取得あるいはトレーラ・ページの出力) で、予測できないエラーが発生します。不正なジョブが終了すると、以降のジョブは正しく出力されます。システム・オペレータが介入しなければならない処理は必要とされません。

6.17 接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP /QUEUE /RESET の使用を避けること

ジョブが "Starting" 状態であり、プリンタが接続を拒否している場合 (たとえば、その PrintServer の電源が落ちている、あるいはブート中である場合) に、弊社の PrintServer プリンタのキューに対して STOP /QUEUE /RESET コマンドを実行

すると、そのキューは停止します。まれに、そのシンピオント・プロセスが停止する可能性があります。PrintServer プリンタが使用可能となるまで、このコマンドを実行することは避けてください。ジョブが "Starting" 状態であり、PrintServer プリンタのジョブ・キューに登録されている場合、STOP /QUEUE /RESET コマンドは正しく実行されます。

6.18 DELETE /ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力

プリンタでジョブのトレーラ・ページ出力中に DELETE /ENTRY コマンドを実行した場合、このページの出力を削除することは可能です。また、ファイルのすべてのデータを転送して PrintServer プリンタにジョブを出力している場合であっても、そのジョブに対する DELETE /ENTRY コマンドを実行して、そのジョブのトレーラ・ページが出力されないようにすることは可能です。

6.19 /COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題

PostScript ファイルに /COPIES 修飾子を指定した場合、DCPS は各ファイルの前後に PostScript の "save" および "restore" を追加して、プリンタ内の仮想メモリの消費を避けるようにします。

ただし、まれに不正な restore エラー・メッセージを表示してプリント・ジョブが中断する場合があります。この現象が発生した場合は、/COPIES ではなく /JOB_COUNT 修飾子を使用してください。

6.20 /JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題

/JOB_COUNT 修飾子を指定した場合に PAGE_LIMIT パラメータを使用すると、期待していない出力となる可能性があります。特に、ジョブの最初の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについてはすべてのページを出力してしまいます。ジョブの最後の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについては指定を無視して出力してしまいます。

いくつかのページを出力しないで複数のコピーを必要とする場合は、/JOB_COUNT 修飾子を使用するのではなく、必要な回数だけ PRINT コマンドを実行するようにしてください。

6.21 I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生 の可能性

SYSGEN パラメータの MAXBUF で設定された I/O バッファのサイズが小さすぎる場合、プリンタ・キューが停止し、OPCOM に次のメッセージが表示されます。

```
%SYSTEM-E-EXQUOTA, process quota exceeded
```

このエラーが発生した場合は、SYSGEN パラメータの MAXBUF の値を増やしてください。

DCPS に影響を与えるその他の制限事項

この章では、日本語 DECprint Supervisor に影響を与えることが確認されているその他の問題、ならびにその問題を処理する必須パッチ・キット (ECO) についての情報を提供します。その他のバージョン用のパッチ・キットが提供されている場合もありますが、ここでは、サポートされるバージョンの OpenVMS のパッチ・キットを示します。

必須パッチ・キットは、次のような方法で入手することが可能です。

- 弊社のカスタマ・サポート・センターに問い合わせて入手する。
- 次の URL の HP IT Resource Center (ITRC) からダウンロードする。<http://www.itrc.hp.com>

7.1 DCPS プロセスによる CPU の消費

特定の状況で、DCPS シンビオント・プロセスが CPU 時間を過剰に消費する場合があります。たとえば、南半球で 10 月の夏時間調整のために時刻を進めた場合、DCPS などのマルチスレッド・プロセスは急な CPU ループに入ります。この問題はプロセスを停止させ、再起動することにより回避できます。この問題は、OpenVMS Alpha V7.3 および V7.3-1 システムでのみ発生します。

下記のパッチを適用することで、次回の夏時間調整時に同じ問題が発生することを回避できます。

- VMS731_TDF-V0100 (OpenVMS Alpha V7.3-1 システム用)
- VMS73_TDF-V0100 (OpenVMS Alpha V7.3 システム用)

7.2 キューの起動による無効なデバイス名のエラー

Raw TCP プロトコルを使用する自動起動 DCPS キューを初期化して起動する場合、キュー・マネージャが "invalid device name" エラーで処理に失敗する場合があります。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on LATEST  
%QMAN-I-QUENOTSTART, queue TEST4 could not be started on node LATEST  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on LATEST  
-QMAN-I-QUEAUTOOFF, queue TEST4 is now autostart inactive  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on LATEST  
-SYSTEM-F-IVDEVNAM, invalid device name
```

この問題は下記のパッチ・キットで解決することができます。

- VMS731_QMAN-V0100 (OpenVMS Alpha V7.3-1 システム用)

7.3 マルチストリーム・シンビオントでのキュー起動の問題

マルチストリーム・プロセスとして日本語 DECprint Supervisor を起動している場合は、Queue Manager 必須アップデートを必ずインストールしなければなりません。

Queue Manager 必須アップデート・キットは次のとおりです。

- ALPQMAN03_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用
- VAXQMAN05_062, OpenVMS VAX V6.2 システム用
- VAXQMAN03_070, OpenVMS VAX V5.5-2 システム用

上記のアップデートは、マルチストリーム・シンビオントを起動している特定の環境下で START /QUEUE コマンドがハングするという問題を解消します。キットで提供されているリリース・ノートには、このアップデートによって解消されるす

すべての問題について記述しています。このアップデートをインストールした後は、システムをリブートして変更を有効にする必要があります。

このアップデートをインストールしていないシステムでは、マルチストリーム・プロセスで実行しているキューを STOP /QUEUE /RESET で停止した後、直ちに START /QUEUE で起動すると、ハングする可能性があります。さらに、次のメッセージが OPCOM に書き込まれることがあります。

```
%DCPS-F-STREAMUSE, Request 4 for Stream Id n ignored.  
Not consistent with symbiont state
```

ハング状態から回復するには、Ctrl/Y を押して DCL プロンプト表示に戻り、続いて再度 STOP /QUEUE /RESET を実行し、数秒待ってから再度キューを起動するようにします。この問題を回避するには、Queue Manager アップデートをインストールしてください。

7.4 シリアル接続プリンタの I/O エラー

OpenVMS ターミナル・ドライバに問題があり、OpenVMS システムのシリアル・ポートに接続したプリンタが I/O エラーを通知する場合があります。この問題は、使用しているシリアル・ポートの種類に依存していますが、OpenVMS Alpha V6.2 ~ V7.0 および OpenVMS VAX V5.5 ~ V7.0 で発生します。

問題は、プリンタのデータ消失防止用の XOFF 要求に対して、ターミナル・ドライバの応答が遅くなる場合があります。この問題は OpenVMS Alpha V7.1 で解消されました。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPOPDR04_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用

7.5 アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンビオントの強制終了

DCPS シンビオントは、CMA (DECthreads) 機能に問題があることを示していると思われる ACCVIO あるいは BADPARAM エラーが発生して、フェールする可能性があります。TCP/IP Services for OpenVMS や DECthreads 機能をベースにしたその他レイヤード製品など、システム上のその他のソフトウェアもフェールする可能性があります。

この問題は、デルタ時間が 10,000 日よりも短いという長年の OpenVMS の制限に関連しています。特に、UNIX 基準時間として 1970 年 1 月 1 日を使用している POSIX 関連のソフトウェアは、この制限に遭遇する可能性があります。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPLIBR07_070, OpenVMS Alpha V6.2 システム用
- VAXLIBR06_070, OpenVMS VAX V5.5-2 および V6.2 システム用

A

Raw TCP/IP ポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して DCPS キューを設定する場合は、使用している NIC (ネットワーク・インタフェース・カード)、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのいずれかのドキュメントを参照して、その raw TCP/IP ポートの番号を決定してください。

表 A-1 に、一般的に使用されるデバイスのポート番号を示します。

表 A-1 raw TCP/IP ポート番号

20nn	DECserver ターミナル・サーバ ("nn"は物理ポート番号)
2501	DIGITAL LN17ps および DIGITAL Laser Printer LN17+ps Emulex NIC
3001	DIGITAL Laser Printer LN15 および LN15+ DIGITAL RapidPrint 500 プリント・サーバ
6869	Compaq Laser Printer LNC02 DIGITAL Laser Printer LN20, LN40, LNC02
9100	Compaq Laser Printer LN16, LN32, LNM40 GENICOM Intelliprint mL, LN および microLaser プリンタ GENICOM RapidPrint MPS1000 プリント・サーバ HP Color LaserJet プリンタ HP LaserJet プリンタ IBM InfoPrint プリンタ Lexmark C, Optra S, Optra T, T および W シリーズ・プリンタ Tektronix Phaser プリンタ Xerox DocuPrint N プリンタ HP JetDirect, Lexmark および XCD プリント・サーバ OKI MICROLINE RICOH IPSiO
9101	HP 9085 MFP

B

システムにインストールされるファイル一覧

日本語 OpenVMS オペレーティング・システムのに、以下のファイルがインストールされます。

DCPSJ024.RELEASE_NOTES	[SYSHLP]
DCPS\$HELP.HLP	[SYSHLP]
DCPS\$SMBshr.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$SMB.EXE	[SYSEXE]
DCPS\$MSG.EXE	[SYSMMSG]
DCPS\$TRNPRC.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_SERIAL.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_CPAP.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_APPLETALK.EXE	[SYSLIB]
TRN\$DDIF_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$DDIF_IMAGE.EXE	[SYSLIB]
TRN\$ANSI_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$PROPRINTER_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$PCL_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$LIST_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$REGIS_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$TEK4014_PS.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$DEVCTL.TLB	[SYSLIB]
DCPS\$STARTUP.TEMPLATE	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$REQUIRED.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$GET_VERSION.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$EXECUTION_QUEUE.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$GENERIC_QUEUE.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$IVP.COM	[SYSTEST]
DCPS\$IVP_ANSI.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_POST.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_PCL.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_PROPRINTER.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_LIST.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_REGIS.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_TEK4014.DAT	[SYSTEST.DCPS]

システムにインストールされるファイル一覧

LPS\$\$SINGLEHOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:
LPS\$\$DOUBLEHOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:
LPS\$\$HOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:
LPS\$\$NUP.LUP	DCPS\$LAYUP:
COLOR-PRINTER-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
COLORWRITER-2000-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
PROPRINTER-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
FULL-A4-LANDSCAPE.LUP	DCPS\$LAYUP:
CPS_TO_DCPS_STARTUP.COM	[SYS\$STARTUP]
LPS_ANSI_PROLOGUE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
UPDATE-ANSI-PROLOGUE.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
FONT_DOWNLOADER.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$\$SET_PRINTER_NAME.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$\$SET_TIMEOUT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_CONFIG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_DEVPARAM.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_STARTPG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_NOSTRTPG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_PRNTCNFG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_PSCRIPT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
FAX_3500_PRINTME.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_PS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_PS_SENDDPS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_TEXT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_TEXT_SENDDPS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$FILE_EXTENSION_DATA_TYPE.DAT_DEFAULT	[SYSLIB]
UNSOLICITED-PJL-FIX.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
IGNORE-A-SIZE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$COMMON-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$CONFIG-PRINTER-PORT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS100-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS200-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS500-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$GET-DS100-PORT-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SET-DS-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SET-DS100-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SAVE-DS500-PORT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$STATUSDICT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
CONFIDENTIAL.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
INSTALL-PS-SUPPLEMENT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
PS_SUPPLEMENT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
NETPRX11.ZIP	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]
README.TXT	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]

システムにインストールされるファイル一覧

UNZIP50.EXE	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]
DCPS\$IVP_KANJI.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_KANJI78.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_LA_KANJI.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$USERSTART.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS-USER-CARD.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$KANJI_TABLE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$PRINTERMARGIN.LUP	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS_DECKANJI_PROLOGUE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
TRN\$CMGR_CONVERT.FDL	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
TRN\$KANJI_CONVERT.FDL	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
TRN\$DECKANJI_PS.EXE	[SYSLIB]

日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS
リリース・ノート

2005年2月 発行

日本ヒューレット・パッカート株式会社

〒140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)
